

## 平成27年度アンケート調査報告書

JKA 子どもが幸せに暮らせる社会を創る補助事業

「障がい者スポーツ体験事業」



NPO 法人パラキャン



**RING!RING!**  
プロジェクト  
競輪の補助事業

この報告書は、競輪の補助により作成しました。  
<http://ringring-keirin.jp>



## はじめに

平成 27 年度に公益財団法人 JAK の補助で行いました「障がい者スポーツ体験事業」のアンケート調査の結果をここに報告いたします。

この事業は、JAK の「子どもが幸せに暮らせる社会を創る補助事業」の一つとして採択され、「障がい者スポーツ体験事業を通して、誰もが生き生きと生きられる社会を形成するための意識付けとなる啓発事業を継続的に実施していくことで 2030 年、40 年という近未来に向けてユニバーサル社会を実現していくことをもって、社会福祉の増進に寄与すること」を目的として活動しました。

具体的には、17 の学校と 3 カ所でのイベント事業を通じて 3181 人(大人 377 人、子ども 2,804 人) の参加者に「車椅子スポーツ体験」事業をお届けしました。この事業を通じ、子ども達一人一人が小さな成功体験を沢山積み重ねる喜びを知り、様々な人がいる社会が豊かな社会であり、「自分も大丈夫、自分も大切な社会に一人である」と自己肯定感を高めることに貢献し、「子ども達が幸せに暮らせる社会を創る」ことに寄与していることを確認するためにアンケート調査を実施しました。

本調査の対象は、イベント事業参加者と許可を頂いた学校の生徒さんを対象にした参加者アンケートと教職員の方たちに対し行った教職員用の 2 種類があります。

参加者用は、その場で行ったので、100%の回収率、教職員用は、85 枚送付し 73 枚の戻りでおおよそ 85%の回収率となりました。

アンケートでは、参加者に事業の具体的内容や今後の再参加を希望するかなどを聞き、それをこの事業の成果としてみることを考えました。特に学校において事業をする場合は、事業を再度やりたいかは教職員が決定権を持つため、教職員がどのように考え、何がよく、何を悪いと感じたかを明確にすることが、そして参加者へは、どんなところが楽しめ、何が学びとなったかを知ることで、より楽しく意義深い学びの場へとなる事業の発展につながることを目的にアンケート調査を実施しました。

今回は、NPO パラ・サポにアンケート調査の結果を解析していただきました。それに対してのコメントや特記事項は、文末に記載いたしました。



## 目次

教職員用アンケート用紙	-----	2
教職員用アンケート解析	-----	3
教員意見（記述）	-----	6
参加者アンケート	-----	9
参加者アンケート解析	-----	10
参加者意見	-----	16
参加者感想	-----	18
総評	-----	19
まとめ	-----	20

## 障がい者スポーツ普及啓発事業 アンケート <教職員用>

### 《体験講座について》

1. 時間配分について  
良かった ・ 普通 ・ 悪かった(理由: )
2. 講演内容について  
良かった ・ 普通 ・ 悪かった(理由: )
3. 司会進行について  
良かった ・ 普通 ・ 悪かった(理由: )
4. 質疑応答について  
良かった ・ 普通 ・ 悪かった(理由: )
5. 当日の打ち合わせについて  
良かった ・ 普通 ・ 悪かった(理由: )
6. またやりたいですか？  
またやりたい ・ 機会があればやりたい ・ もうやりたくない  
(理由:: )

### 《事前準備・資料について》

7. 送付資料の内容について  
分かりやすい ・ 普通 ・ 分かりづらかった(理由: )
8. 送付時期について  
早い ・ 丁度良い ・ 遅い(理由: )
9. 今回の事業にJKAの補助金が使われていたことはご存知でしたか？  
はい ・ いいえ

今後の要望や感想、ご意見をお聞かせ下さい。

--

学校名をご記入下さい。	
-------------	--

ご協力ありがとうございました。

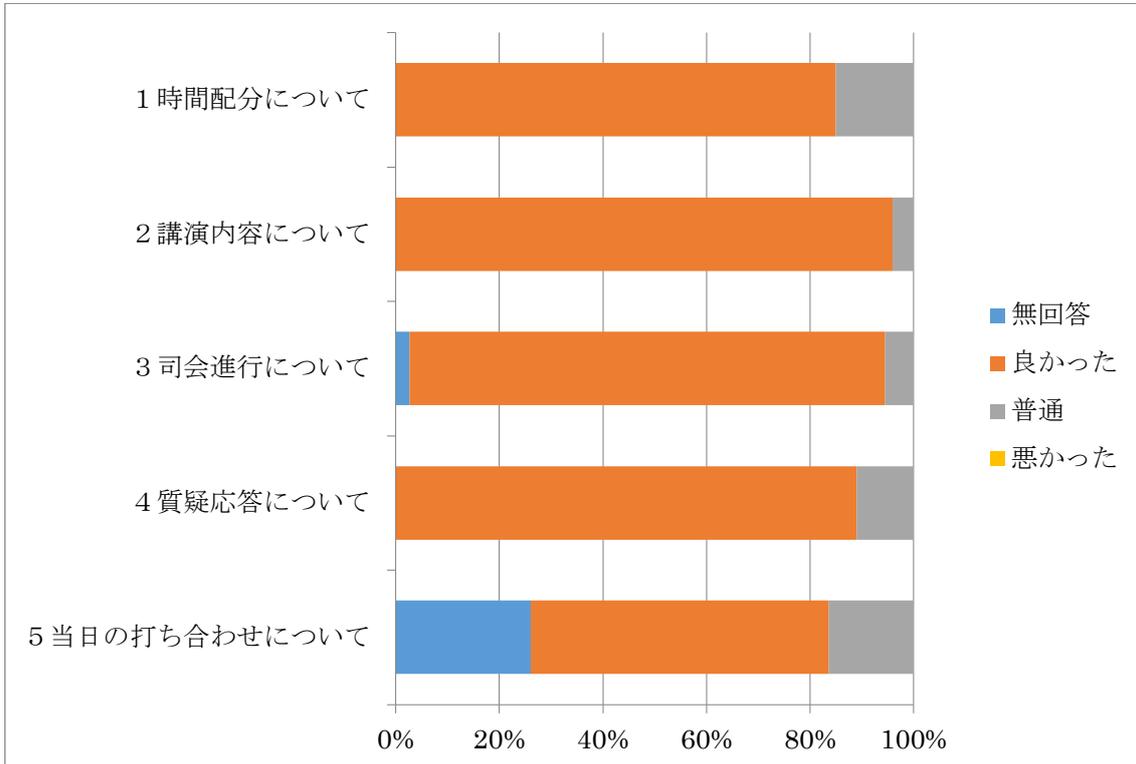


**RING!RING!**  
プロジェクト  
競輪の補助事業

## 教員アンケート集計結果

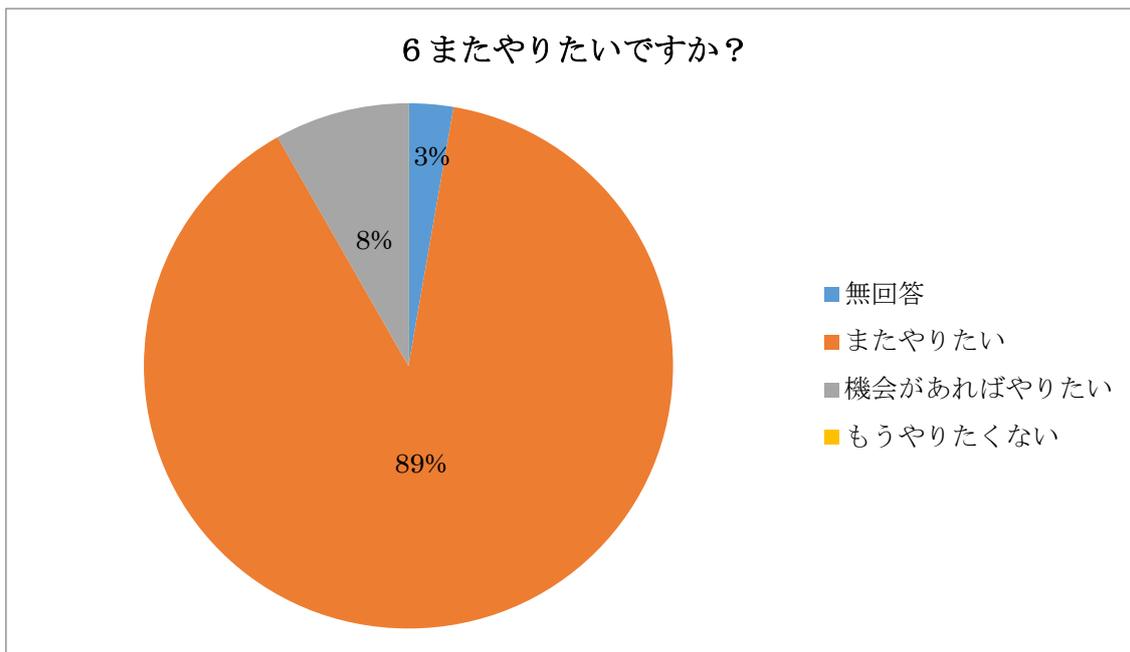
<<教員結果（73名）>>

### ★体験講座について



	無回答	良かった	普通	悪かった
1 時間配分について		62	11	
2 講演内容について		70	3	
3 司会進行について	2	67	4	
4 質疑応答について		65	8	
5 当日の打ち合わせについて	19	42	12	

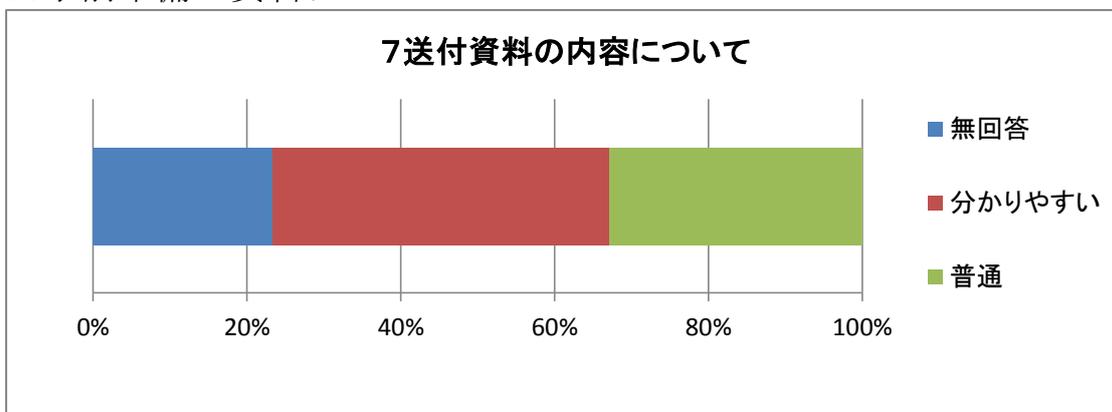
「体験講座について」の質問では、「良かった」が当日の打ち合わせのみ 60%弱と、改善の余地があると思われるものの、時間配分で 85%、司会進行で 92%、質疑応答で 89%といずれも良い評価で、ほぼ全員が満足したという結果だった。特に講演内容は 96%と高い評価を得られ、感想を見ても「心に響いた」「自分の考え方が変わった」「できないことを数えるよりできることを数えたい」などの意見も記述回答の中にたくさん見られ、講演による影響が大きいことが見て取れる。当日の打ち合わせに関しては、事業に参加していても打ち合わせに参加されない先生たちもいることから、無回答はその先生たちであると考えられる。



無回答	またやりたい	機会があればやりたい	もうやりたくない
2	65	6	

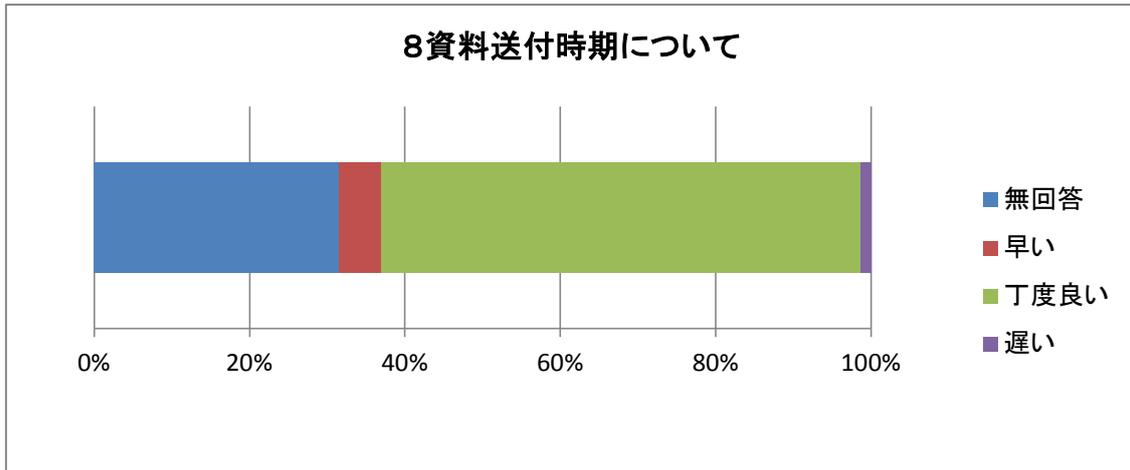
「またやりたいですか？」という質問に対しては、「またやりたい」「機会があればやりたい」を合わせると 97%で、今回の事業が高評価であり、次回以降実施受け入れの可能性が高いとみられる。高評価の要因として、記述式の部分にあった「工夫がされている」「小さい子供でも楽しめる工夫があった」が考えられる。「このような体験の場がもっと増えたらよいと思う」などの意見や「楽しかった」という感想が多かったことから事業が充実したものだったことが伺える。

### ★事前準備・資料について



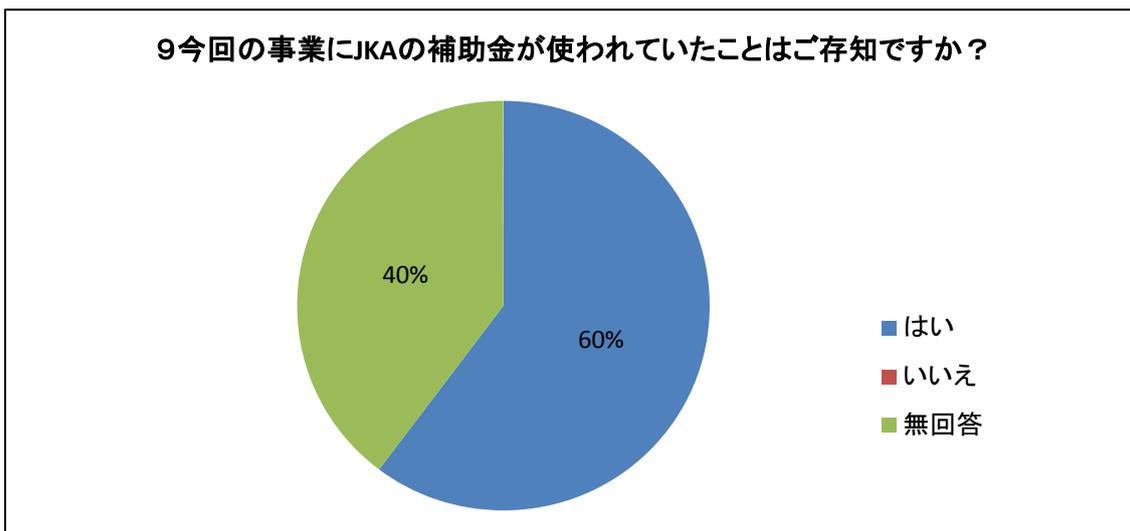
無回答	分かりやすい	普通	分かりづらかった
17	32	24	

「送付資料の内容について」は、「分かりやすい」が 44%、「普通」が 33%という評価。資料をより分かりやすいものにする工夫をして、親しみやすさを追求することが必要と思われる。



無回答	早い	丁度良い	遅い
23	4	45	1

「送付時期について」は、「遅い」と回答した人がわずか1名いるのみで、「丁度良い」「早い」を併せると68%を超えており概ね適切であったと言える。事務局に確認すると、申込直後、3日以内に資料を送付しているとのことなので、申込時期と実施日の兼ね合いとも考えられる。但し30%に及ぶ「無回答」に関しては、原因がわからないとのことなので、今後確認をする必要がある。



はい	いいえ	無回答
44		29

今回の事業に際して JKA 補助があったことへの認知度は、60%となっており、自由記述欄の感想には「(このような) 補助が有るのを初めて知った」という発言も複数あり、本事業が JKA の知名度を高めることに直接寄与したことが伺える。また教育の現場において「お金の出所」をどこまで受益者(参加者)に明確にしていくかは、その学校等の方針もあり、一概には言い難いとは思いますが、今後の課題の一つだと考える。

## ★教員意見

子ども達の心にお話が響いていたしっかりと聞いていました。

子どもが楽しめる内容だった。

子ども達が親しみを込めて講師の先生を名前と呼んでいた。

体験を全員でできたのでとても喜んでいました。

グループごとに分かれての質問タイムはとても充実した時間となりました。

最後の見方捉え方、考え方を変えると世界が変わること、子ども達も気づいたようです。とてもよい経験となりました。

子ども達の障がいのイメージを自然に変えてくれる2時間でした。本当にありがとうございました。

質問に自然体で答えて頂いて感謝しています。

車椅子に乗っている方のイメージが変わったと思います。ありがとうございました。

実際に車いすに乗れて良い体験ができた。また質疑応答もグループ月に対応していただき有意義な時間が過ごせた。ありがとうございました。

障がい理解教育をするうえで大切な時間だと思った。

本当に素晴らしい時間です。体験を直接教えて頂けるとあって子どもたちもよくわかったみたいでした。

車椅子バスケットを通して車椅子の乗り方やパラリンピックについて楽しく学ぶことができました。

本日はありがとうございました。子ども達は楽しく体験できました。またやりたいとすぐ言っていました。

生徒の目の輝きが印象的でした。職員も講師の皆さまから多くのことを学ばせて頂きました。

校内の準備があるので、もう少し資料が早いほうが有難かった。

内容がとてもよく今も生徒はその時の話を頻繁にします。「できないことを数えるより出来ることをかぞえる」が特に心に残っているようです。

全体のお話や体験、生徒の様子を見ての的確な進行で心に残る素晴らしい時間でした。グループでの質問タイムも身近に感じられ興味を持つ生徒が多数いました。

入試などを目前にし、進路に不安を抱えた三年生にとって、勇気づけられ励まされる内容でとてもよかったと思います。

高校を卒業し様々な進路を歩む生徒達はそれぞれに多くのことを感じ取ったことと思います。ありがとうございました。

今後も本校に来て3年生に元気を与えてやってください。

生徒の興味をうまく引き出して引き付けるように工夫されていることがよく伝わりました。楽しい雰囲気の中で大切なメッセージを伝えられている姿が素晴らしかったです。

中学校でパラキャンの体験をしている生徒も、今回の訪問をとっても喜んでいたので、何度でもお願いしたいと思います。

高校を卒業して社会にでる前の高校生にこのような機会を与えて頂いたことに感謝しています。ありがとうございました。

説明が解りやすく良かった。

何かをつかんだ生徒が多かったのでまたやりたい。(終わった後にいい顔をしていた。)

多くのことを感じられた事業でした。

選手の方たちのお話しも大変わかりやすく面白く子ども達の興味を引き付けていました。

素晴らしい学びの機会となりました。

子ども達にとっても我々大人にとってもこの時間をもてたことで見え方が変わるものがありました。

多くの人がこの体験に参加することができたらと心から思えるものでした。

パラリンピックそのものに対する理解というよりも、最後のまとめで生きることそのものについて日々どのように向き合うか、生徒達に対し重要な指針を与えて下さったことに大変感謝いたします。全身を使って楽しみながら大切なものを学ぶことができました。

充実した内容の 100 分間でした。生徒は身をもって多くのことを体験し学べました。

いつもながら諸隈さんの大変見事な話術と進行で大変充実した時間を過ごすことができました。最初は消極的だった生徒たちがどんどん引き込まれていくのが解りました。

またお願いしたいです。

話も具体的で生徒達も入りやすかったんだと思います。

生徒とコミュニケーションを取りながら、スポーツにとりくまれているところなど非常に今後の生徒への指導などの参考になりました、

自分のためになった、という生徒が多く普段聞けないような話、特に「人生」について聞かせて頂いてよかったという生徒が多かった。

障がい者がどうかではなく、一生懸命生きている人の姿を見せることができるいい機会だと思うので、是非もっと多くの生徒に体験してもらいたいです。

貴重な時間をありがとうございます。元気をたくさんもらいました。

障がいがあるにも関わらず、生き生きと活動されている姿を見て、大きな勇気をもらいました。人間の可能性に限界や壁を作りすぎている世の中を変えていくパワーを感じました。悩んだりする時が有れば皆さんのことを思い出したいと思います。

素晴らしい講演をありがとうございました。日々何かをこなすことに必死な生徒、そして教員でも同じ状況の中で今一度、人として忘れてはならないことは何か？を

伝えて頂いた気持ちがします。またお会いしたいです。

生徒たちは、話を聞かせて頂き多くのことを感じ学ぶことができました。ありがとうございました。

来年度もお願いいたします。

前向きに力強く生きる姿を見せて頂いて、生徒の心に響くお話を聞かれて頂きありがとうございました。

50人以上集まると集団に入れられない生徒も、小グループでの質疑・具体的な体験を実施するときに参加できました。今後もお願いしたいです。

講師の先生方の生き生きした表情、お話しに生徒達は引き付けられていました。このような活動を継続的に続けて頂きたいと思います。

## パラリンピックキャラバン アンケート（参加者用）

☞あてはまる番号に○をつけてください。

所属 ①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生・専門学生 ⑤社会人  
性別 ①男 ②女

1. 今までに障がい者のスポーツを実際に体験したことはありますか？  
①はい ②いいえ

2. 今日の体験講座に参加したきっかけはなんですか？  
①ポスター・チラシを見て ②親に聞いた ③先生から聞いた  
④友達に誘われた ⑤その他（ ）

3. 今日の体験講座の内容を点数にすると？  
大変面白かった 良くも悪くもない 面白くなかった  
100点 50点 0点

100点	50点	0点
----- ----- -----		

4. またこのような機会があれば参加しますか？  
①ぜひ参加したい ②機会があれば参加したい ③どちらでもいい  
④あまり参加したくない ⑤参加したくない

5. 今日の体験講座の中で印象に残ったことはなんですか？○はいくつでもいいです。  
①誰にでも可能性がある ②夢（目標）は叶う ③助け合う事は必要だ  
④誰とでも友達になれる ⑤出来ないことも工夫したら出来る  
⑥障がい者は大変だ ⑦障がい者はかわいそう  
⑧その他（ ）

6. 今日の障がい者スポーツ体験事業がJKAの補助事業だったことを知っていましたか？  
①はい ②いいえ

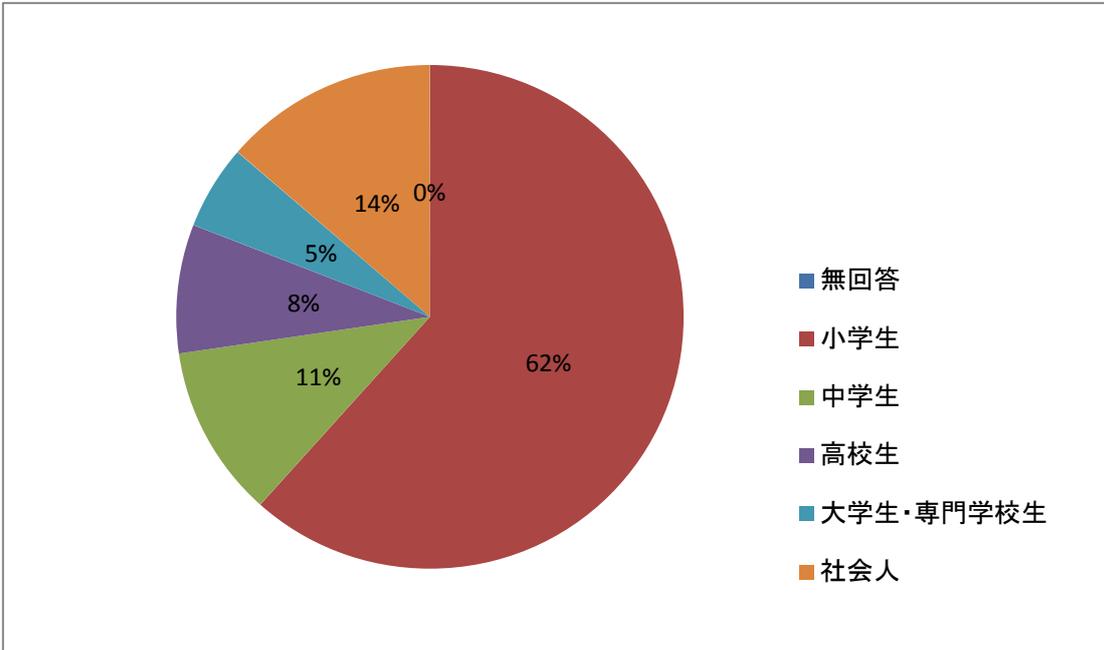
ご協力ありがとうございました。



**RING!RING!**  
プロジェクト  
競輪の補助事業

## 参加者集計アンケート結果

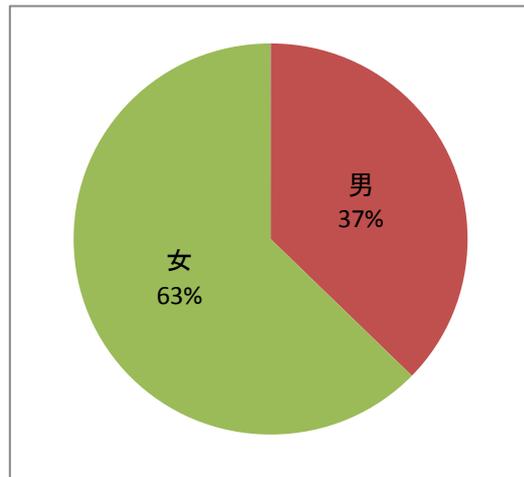
### <<参加者結果（834名）>>



無回答	小学生	中学生	高校生	大学生・専門学校生	社会人
	514	92	69	45	114

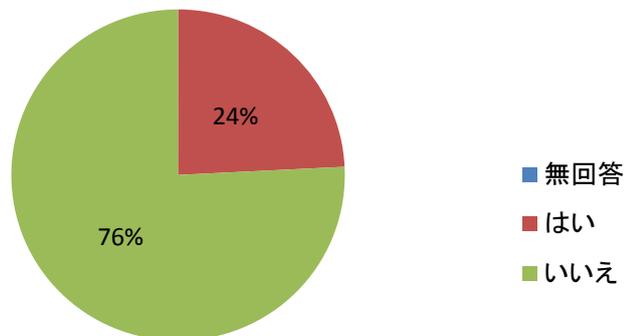
参加者は、小学生が62%と圧倒的に多く、次いで社会人15%、中学生12%、高校生8.2%、大学生・専門学校生6%の順となっている。チームで参加している子供も多く、教師やスポーツ団体、保護者がまずこのような機会を知り、子供たちを連れて参加したというケースが多いと思われる。アンケートの回答者の80%ぐらいがイベントの参加者であることを鑑みると、小学生だけでなく、中学・高校生、大学生などのイベントへの参加者を増やすための手立てを考える必要がある。

無回答	男	女
	311	523



参加者の男女比は、女性が男性の倍程度上回っている。女性のほうが関心度が高い、もしくは参加する時間が取りやすいと考えられる。多くの男性にも参加してもらえるように、時期ややり方などの工夫が必要と思われる。

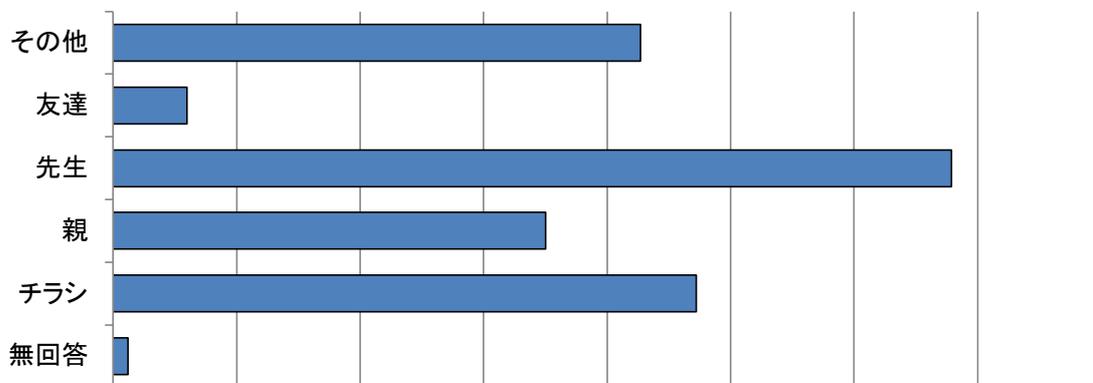
### 1 今までに障がい者のスポーツを 実際に体験したことはありますか？



無回答	はい	いいえ
	202	632

「障がい者スポーツの経験」については、ここで初めて体験した人が76%と、これまであまり障がい者スポーツに触れる機会が無かったか、あっても興味が無かったものと思われる。なるべく多くこういう場を作り、興味を持って参加してもらう必要がある。

### 2 今日の体験講座に参加したきっかけはなんですか？



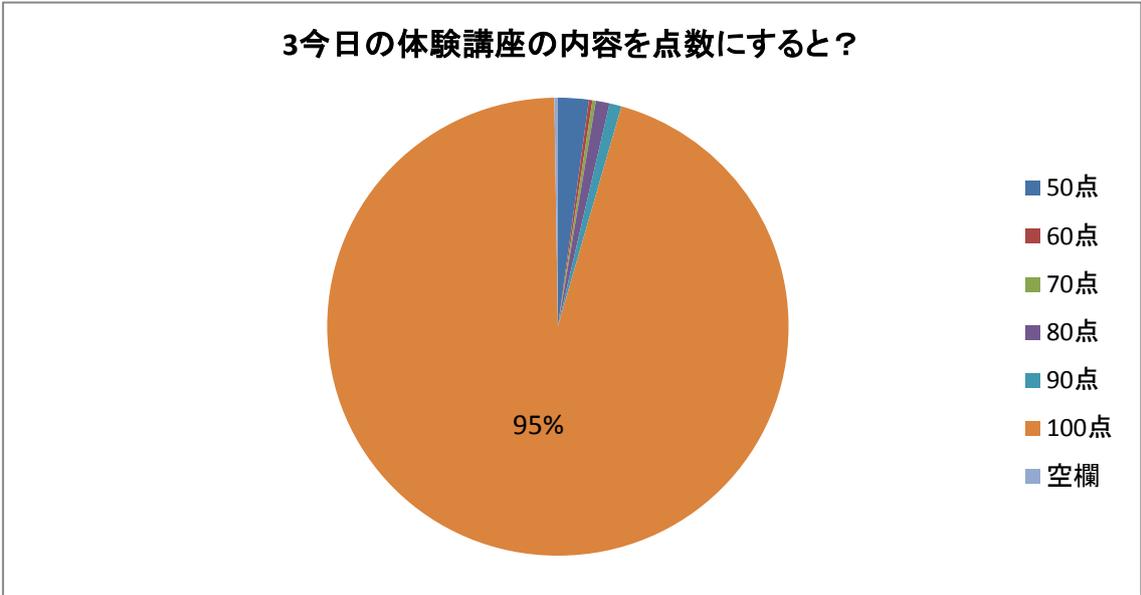
	無回答	チラシ	親	先生	友達	その他
	5	197	146	283	25	178

その他内容

チームが参加

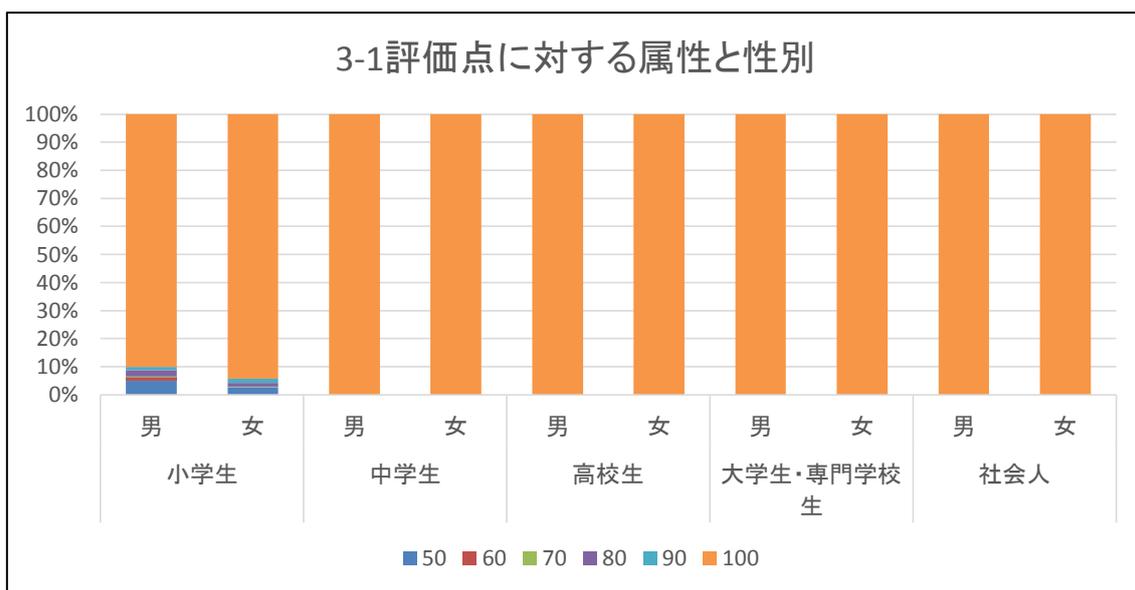
子どもが参加  
 パラキャンに依頼して来てもらった  
 ボランティアの為  
 少年団で  
 NPOに申し込んだ  
 手伝いの為  
 おじいちゃんに聞いた  
 コーチから誘われた  
 シニアボランティアで  
 チラシを貰ってチームで来た  
 孫と来た

「参加したきっかけ」は、「先生からの聞いた」が一番多く、次いでポスターなどの告知が多かった。参加者を増やすためには、まずこういう場があることを知ってもらうことが大前提で、そのためにはなるべく多くの目に触れるよう告知を増やし、興味を持ってもらうことが大切である。



50点	60点	70点	80点	90点	100点	空欄
18	2	2	8	7	795	2

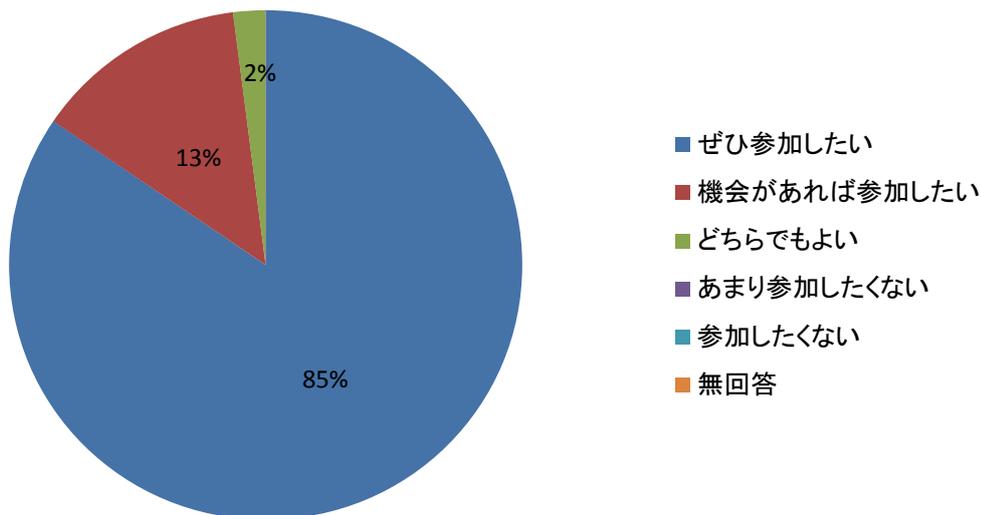
「体験講座の内容を点数にすると？」という質問では、100点が95%と、大変高い評価であり、ほぼ全員が満足したと言える。「もっとこのような事業があったら良いと思った」「子供たちには必要な事業だと思った」という意見にも表れている。



	小学生		中学生		高校生		大学生・ 専門学校生		社会人		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
50点	9	9									18
60点	2										2
70点	1	1									2
80点	4	4									8
90点	2	5									7
100点	163	312	37	55	48	21	11	34	32	82	795
空欄	2										2
総計	183	331	37	55	48	21	11	34	32	82	834

「評価点に対する属性と性別」では、小学生の一部に 50 点が少ないながら見られ、男女差は特にはない。一方、中学生以上では全員が 100 点満点をつけており高い評価を得ている。50 点を付けた小学生においても、「面白かった」や「機会があれば参加したい」にチェックをしているので、高得点をつけなかったが良い時間は過ごせたのだと思う。学校や所属している団体の行事として、本人の意図に関わらず参加している子どもの多くいるので、興味関心がない参加者が一定層あることを意識して臨機応変にプログラム展開をすることも必要になるが、記述の部分を見ると、そこは当日の担当者たちがうまく対応したことが伺える。

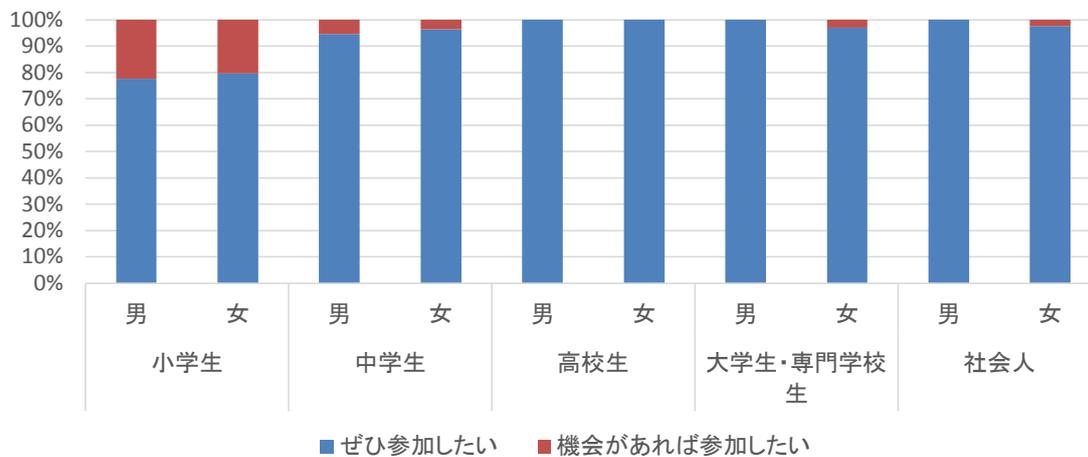
#### 4またこのような会があれば参加しますか？



ぜひ参加したい	機会があれば参加したい	どちらでもよい	あまり参加したくない	参加したくない	無回答
705	112	17			

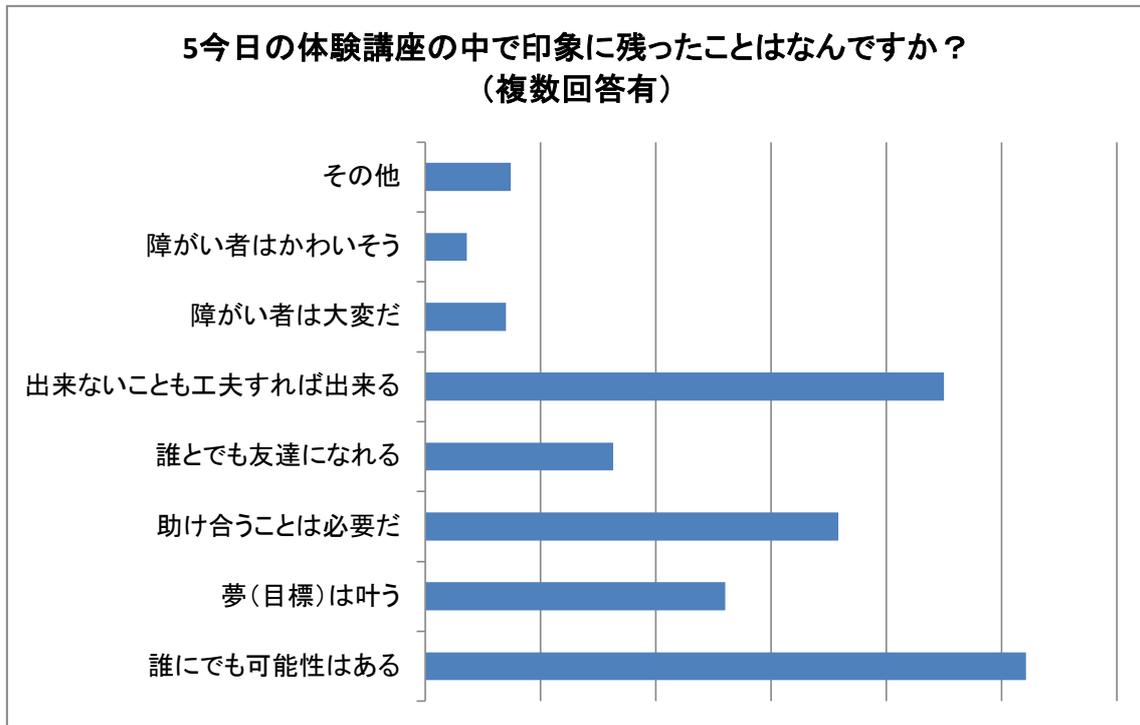
「また参加したいか？」という質問では、「ぜひ参加したい」と「機会があれば参加したい」を合わせると、98%と次回への大きな期待が感じられる。「またやりたい」という声が多く、また「見ると聞くでは大違い」と意見にあるように、実際に自分の目で見、体験することが大切であると考えられる。

#### 4-1 ぜひ参加したい・機会があれば参加したい 性別・属性内訳



	小学生		中学生		高校生		大学生・ 専門学校生		社会人	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
ぜひ参加したい	135	257	35	53	48	21	11	33	32	80
機会があれば参加したい	39	66	2	2				1		2

性別・属性を見ると男女差はほとんどないものの、「機会があれば」という消極的意欲が小学生に若干見られる。感想に「もっとスポーツを増やしてほしい」という意見もあり、体験の種類を増やすなど興味の対象の幅を広げて、特に小学生に興味を持たせられれば、今後につながるものと思われる。



誰にでも可能性はある	521
夢(目標)は叶う	260
助け合うことは必要だ	358
誰とでも友達になれる	163
出来ないことも工夫すれば出来る	450
障がい者は大変だ	70
障がい者はかわいそう	36
その他	74

## その他意見内容

これからの人生について考えようと思った。自分の「いいところをもっと増やそうと思った。

できる事を工夫して上手になる。

パラリンピックの意味が分かった。

まったく大変そうに見えなかった。

ミーティングで補助があったことを聞いた。ありがとうございます。

もう一度夢を持とうと思った。

もっとこのような事業があったらよいと思った。

もっと障がい者が住みやすい街に作っていかないといけないと思った。

もっと挑戦したい。

何事も前向きに諦めずやれば出来ると思った。

可能性は少しでもあるから諦めないで生きていきたい。

希望が見えた。

可能性を潰すのではなく広げていくことが大切。

考え方とか自分の気持ちで変わっていくんだと思った。

今、自分にできることをやっていくということが響いた。

最後の話が心に刺さったので、考え方を変えていきたい。

今の自分に何が出来るか日々考えていきたい。

今日、諦めちゃだめだと思った。

子どもに大きなインパクトを与える内容で非常に良いと思う。

私も頑張りたい。

子どもの心に残る事業だと思う。

車椅子の生活はきつそうだった。

自分ができないと思ったらできない。

自分でできないと思うから出来ないのだと思った。

自分にしかできないものはあるからそれを糧に生きていきたいと思った。

自分の知らない世界が見えた。格好良かった。

自分は心の方の障害を持っているのであんな風になれたらと思います。

自分も頑張りたい。

自分をしっかり見直したい。色々な人の良いところを発見していきたい。

自分をネガティブでダメだといつも思って生活しているけど私にしかできないことがあるからそれを糧に生きていきたい。

車椅子でもいろんなことができるのだから自分にもいろんなことができる。

障がい者と健常者の差はなかった。

出来ないことより出来ることを数えようという言葉が刺さりました。

出来ないことを数えるより出来ることを数えたいと思った。

出来ないことを数えるより出来ることを数えるが心に残った。

将来、スポーツトレーナーになったら、障がい者スポーツ選手にも携わりたい。

障がいがあるけれどもだからこそ出来ることがあると思った。  
人は無限の力があると思いました。  
障がいを持っていても自分にとっての自由は変わらないと思った。  
諦めずに最後までやり遂げたいと思った。  
障がい者と健常者の違いはないのだなあと思った。  
人間は、その気になれば何でもできる。  
障がい者の人が不自由に思うのは、障がいによるものではなく、まわりの環境や人によるもの。  
人は皆違って皆よい、当たり前なことだけど改めて気づかされた。  
大変なこともあると思うけど前向きに生きている姿がとても素敵でした。  
人間にはできる事と出来ない事がある。  
障がい者スポーツを見たのではなくスポーツを見たのだと思った。  
人間はできる事を見つけて工夫できるということ。  
他の力を借りて挑戦するのが大事後思った。  
諦めたらそこで終わりってことを学んでいくことができました。  
諦めてしまう前にもう一度考えていこうと思った。  
努力と可能性を否定しないようにしたい。  
何度でも挑戦者。  
費用の補助があって大変助かりました。  
補助して頂けこのような事業をして頂けるのが有難い。  
夢に向かっていろんなことに挑戦していきたい。  
立ち向かう勇気がすごいと思った。  
両足で歩けることが当たり前と思わず、幸せだと思えた。  
良いところを見つけて極めればすごいことができると思いました。

「体験講座で印象に残ったこと」は、「誰にでも可能性はある」や「出来ないことも工夫すれば出来る」が多く、「助け合うことは必要だ」「夢（目標）は叶う」が続く。一方「障がい者は大変だ」や「障がい者はかわいそう」といった、他人事のような捉え方をする人は少なかった。

感想を見ても、「障がい者と健常者の差は無かった」「障がい者が不自由に思うのは障害によるものではなく、まわりの環境や人によるもの」などと、体験してみて初めて気づくことが多いと思われる。

## ★感想

2020年に向けて大事なことを学んだ。  
いろいろなスポーツがあってよかった。  
いろいろなスポーツがあって楽しかった。  
いろいろな車イスがあって、また乗りたい。  
くまちゃんイケてる！  
テニスが楽しかった。  
テニス面白かった。  
とても楽しかった。  
バスケが楽しかった。  
ばすけが楽しかった。  
バスケしてみたいです。  
テニスが面白かった。  
バスケ以外のスポーツで車いすのスポーツをできる事が分かった。  
パラリンピック応援に行きたい。  
また参加したい。  
みんな一緒。障がい者はみんなと変わらない。  
もっとこの活動が増えればいいと思った。  
もっとスポーツを増やしてほしい。  
楽しかった。  
見ると聞くでは大違い、楽しかった。  
元気が出た。ありがとうございました。  
工夫すれば色々なスポーツが出来る、テニス楽しい！  
工夫次第でいろいろできる事がわかった。  
講師の方の生き生きとした姿が素敵だった。  
子どもにはもっとこのような体験をさせたい。  
子どもにもとても良い体験でとても楽しかった。  
子ども達には必要な事業だと思った。  
車イスが思ったより軽かった。  
車イスでスポーツが出来ると知ったのでまたしたい。  
車イスでスポーツが出来ると初めて知ったのでまた来てみたいと思った。  
車イスでバスケが出来るとなんて良い経験でした。  
車イスで鬼ごっこが出来た。  
車イスに乗っていても工夫すれば何でもできるということがわかった。  
車イスに乗っていても出来ない事ばかりでないことが分かった。  
車イスの人のスポーツは少ししか知らなかったけどたくさんあることが分かって良かった。  
車イスの人は大変だと思います。  
車イスを使っている人がいたら助けてほしい。

車イスを乗っても工夫すれば楽になることが分かった。  
住みよいまちづくりにお互い頑張りましょう。  
小さい子供でも楽しめる工夫がして会って大変楽しかった。  
障がいがあっても自由があったりスポーツが出来たりしていた。  
障がい者でもスポーツができる事が改めて分かった。  
障がい者でも頑張れば何でもできると分かった。  
障がい者の人でもみんなと同じように楽しめる。  
障がい者は大変そうだけど大変でないことが知れた。  
障がい者も同じように不自由なくスポーツなど楽しめる事が分かった。  
体験の場がもっと増えたらよいと思った。  
誰でもスポーツが出来る勇気が必要。  
誰でも少しの勇気があれば出来ないスポーツはなく、誰でも頑張れると分かった。  
陸上や風船バレーがあったので楽しかった。

## 【総 評】

今回の事業は、アンケートや感想などから、参加者は大いに満足したという結果を得られたうえ、再び参加したいという興味と期待を持たせることに成功したと考えられ、その成果は高く評価される。また、障がい者に対する感覚的な隔たりが少しでも減り、理解を深めることにつながったことから、「子どもが幸せに暮らせる社会創り」への啓蒙効果はあったと判断できる。今後もこういう場を多く設け、理解者を増やしていくことが大切である。

また教職員の意見から、小学際から大学生まで同じものを見聞き体験しているが、夫々に「子ども目線」「面白い」「わかりやすい」というような意味合いの言葉が出てきている。これは、対象に合わせて柔軟に言語やグループ形式の採用等、内容や時間配分などを柔軟に現場の様子を見て行った結果だと考えられ、運営側の実施能力の高さを確認する結果ともなった。

これからの課題としては、送付資料をより分かりやすくすること、告知を増やすこと、打ち合わせの改善、男性の参加者を増やす、小学生以上の参加者を増やすことなどが挙げられる。この事業を一度限りで終わらせないために、さらなる創意工夫をして、参加者から新たな参加者へと広がれば、理解者がさらに増え、障がい者スポーツがより身近なものとなり、本事業の最終目的である「近未来に向けたユニバーサル社会の実現」＝「子どもが幸せに暮らせる社会を創る」に貢献できるものとなる。

障害者スポーツの未来を担う一旦となり得るこの事業の意義は大きく、さらに拡大させ、発展させることが大切だと考えられる。

## まとめ

以上、事業実施後のアンケートから、事業全体としては、良い評価を得ており、本事業の目指す啓蒙効果も相当程度あったと思われます。今後については、解析の総評でNPOパラ・サポさんよりご指摘を頂きました点について、改善を図り、さらにより子ども達に役立つ事業になるよう努力していきます。

学校において開催した場合は、事前事後指導やその後の学内での学習等で講師たちが参加した方たちとつながりを持つことも多くあります。またイベントの場合は、フェイスブック等で直接つながり、その後の事業への関心を継続させることなどにより、一回の出会いに終わらない、事業の波及効果もあると考えています。

今後も、「子ども達が幸せに暮らせる社会」の実現に役立つ事業をより深く大きく広げていきます。

以上



平成 27 年度 公益事業振興(競輪)補助事業

平成 27 年度アンケート調査報告書

JKA 子どもが幸せに暮らせる社会を創る補助事業

「障がい者スポーツ体験事業」

平成 28 年 3 月

編集・発行

特定非営利活動法人 パラキャン

〒277-0082 千葉県柏市緑ヶ丘 8-1-102

電 話 04-7169-6423



E-mail [info@para-can.com](mailto:info@para-can.com)

U R L <http://www.para-can.com>